

病院・医療等対策特別委員会

▶ 特別委員会の協議経過

■第19回特別委員会

- 1) 期日 令和5年3月23日(木)
- 2) 内容 中津川市公立病院あり方検討委員会の報告等について
- 3) 報告事項
中津川市公立病院あり方検討委員会の報告について
坂下診療所・老人保健施設の民営化進捗状況について

【中津川市公立病院あり方検討委員会の報告について】

▶ 主な質疑

Q：現在の経営形態が市民病院に与えている課題や問題はありますか。

A：病院独自の判断で、迅速な動きが取れないことです。

例えば、職員採用の面でも独自の任用ができないため、迅速な人事対応が取れないことがあります。

Q：中津川市公立病院あり方検討委員会でのアンケートの際、病院の経営形態を、公営か民営化かではなく、地方公営企業法全部適用、独立行政法人化等の選択肢について示されましたか。

A：2回のアンケートで経営形態について、地方公営企業法全部適用、地方独立行政法人、指定管理者制度、民間譲渡、わからない、その他の選択肢を示し、意見をいただきました。

Q：新病院建設の必要性はあると思いますが、黒字化しないとできないと書いてありますが、黒字化の目標はありますか。

A：令和5年度に策定する令和9年度までの経営強化プランの中で目標値として黒字化を目指す計画を示してまいります。

Q：経営強化プランでは、坂下診療所の民営化を視野に入れと書いてありますが、どういうことですか。

A：民営化が決定したわけではありませんが、民営化に向けて調整をしている中で、法人からそれ相当の病床を確保したいという要望がありました。その病床のことを視野に入れながら、医療提供体制を検討していくという趣旨です。

Q：経常黒字化は、いつ判断するのですか。

A：毎年検証します。

Q：経常黒字化の判断後の対応については、コロナの終息後にしばらく経ってから考えたほうがいいと思いますがいかがですか。

A：経営強化プランは、黒字化を一番の目的としています。令和5年中の策定となっており、コロナの状況を加味しながら、計画を立てていきたいと思っています。

【坂下診療所・老人保健施設の民営化進捗状況について】

Q：病床確保について、どのような調整をしていますか。

A：病床の承認を得るための、東濃圏域地域医療構想等調整会議が年に2回程あります。その会議で承認されるよう、上程するための資料作成をしています。

Q：法人からの要望では、回復期が50床、療養病床が50床ですが、恵那管内の病床はどういう状況ですか。

A：2025年の東濃医療圏必要病床数は、「高度急性期」が92床過剰、「急性期」が437床過剰、「回復期」が224床不足、「慢性期」が69床不足とされています。しかし、東濃東部圏域については、医師会の理解を得て調整会議に臨むことが必要です。

Q：借地の問題解消について、地権者は何人おられて、何人ぐらいが了承され、契約はどうなるのでしょうか。

A：地権者は4名で、現在交渉中です。

Q：坂下診療所の民間譲渡は、法人側の要望か、市側の要望か、どちらですか。

A：中津川市として、民間譲渡で公募をかけました。

Q：指定管理ではだめなのですか。

A：現時点では、譲渡ということで話をしております。